



私の現場  
komachi's point

現場空撮。小串はこれからB棟のホテル階などを担当する（提供：東急建設(株)）。

輝け!

けんせつ小町

# 現場監督

小串聖子

東急建設(株)  
渋谷駅南街区プロジェクト  
新築工事



「けんせつ小町」は、日建連が定めた建設業で活躍する女性の愛称です。

大規模再開発が進む東京都渋谷区。そのなかの一つ「渋谷駅南街区プロジェクト」の現場に、今号の主役はいる。シャワールームやパウダールームを完備した女性専用の休憩所を設けるなど、女性の活躍を推進する新たな取組みを提案している。けんせつ小町が描く新時代の現場がそこにはあった。

## サッカー大好き！ 競技場をつくりたい

小串聖子は一九八七（昭和六十二）年、神奈川県横浜市生まれ。小学二年生の時、五歳離れた兄がサッカー部に入学したことをきっかけに、サッカーに興味を持った。一九九一年にJリーグが発足し、日本中でサッカー人気が高まってきた頃だ。横浜フリューゲルスが大好きで、ホームスタジアムである三ツ沢公園競技場には、家族でよく足を運んでいた。

「サッカー観戦が家族行事でした。三ツ沢が一番好きな競技場で、選手と観客席の距離が近いので、とても盛り上がります」

選手から伝わるエネルギー、競技場に響き渡る歓声、人々が楽しげに集う空間がたまらなく好きだった。

「その頃から競技場をつくりたい！ と思っていました。中学時代はスポーツ記者を目指しましたが、ぜんぶサッカーつながりです（笑）」

普通科高校に進学し、総合学習の時間に競技場や駅のデザイン、施工方法について勉強した。「学習テーマは自分で決めることができましたので、建設関係の本をよく読んでいました」

熱心に調べる小串の様子を見て、担任教諭が建築学科への進学を勧めてくれた。

競技場をつくる夢を叶えるべく、大学では構造コースを選択。その時すでに、ゼネコン（総

合建設業）への就職を視野に入れていた。

「競技場はもちろん、駅にも興味があったので、渋谷の街全体をつくり上げる会社というイメージがあった東急建設(株)を受けました。入社が決まった時、研究室のみんなに羨ましがられたのを覚えています」

## マンション建設の醍醐味

夢への第一歩を踏み出した小串はその後、合計六現場のマンション建設に携わることになる。二つ目の現場で鉄筋工事の担当を任せられたときのこと。工事記録写真の撮影や整理を行うが、なかなかうまくいかない。上司からこれでは記録にならないと指摘を受け、撮り直しを始めたがどうにも終わりそうにない。泣き出しそうなお小串を見かねて、職長が声を掛けた。

「『できると信じて仕事を任せている上司の期待に応えなさい。泣く暇があったら手を動かしなさい』と言われました。今でも泣くことがいっぱいありますが、この言葉を思い出して仕事に励んでいます」

現在も職人からの叱咤激励はある。発注のタイミングが遅れたことで次の工程に移れず、職人を待たせたこともあった。だが、そういった経験は反省し次に活かせばいい。

「職人さんからの指摘が一つもない日は、『よかったー』と、そっと胸をなで下ろします」  
数々のマンション現場を経験してきた小串が





南街ステーションで先輩とパトロールの打ち合わせ。「これまでの現場は着替えも男性と共有のスペースだったので、タイミングをずらしたりと気を遣うこともありましたが、ここはそういったストレスはゼロです」(丹羽職員)



## 「自分たちがつくった建物が人々の生活の一部になることに感動」

私の仲間  
komachi's point



上/所員のみなさん。藤平所長と後輩の丹羽職員が小串を囲む。  
下/鉄筋担当の職長と打合せを行う。現地確認と指示出しも大事な業務だ。

のけんせつ小町で結成した「南街こまちチーム」のリーダーも務めている。現場では女性が働きやすい環境づくりの一環として、作業所内に女性専用の休憩所「南街ステーション」を開設。東急建設(株)が施工する渋谷の再開発工事に関わる女性であればだれでも利用できる。二つの休憩スペースに加え、シャワールームやパウダールームも完備しているというから驚きだ。

「室内にお花を飾ったり、ロッカールームにキラキラのシールを貼ったり、少しでもリラックasできる空間になるように工夫しています」

一階の売店には、小さいサイズの軍手や髪留めなどが並ぶ女性向けコーナーを設けている。そのほかにも、南街こまちチームによるパトロールや、長くなりがちな就労時間の改善にも力を入れている。

「フレックスタイム制度を導入していて、実際に利用している職人さんもいます」

一週間の業務予定表をつくる際に、週一回のノー残業デーを設ける取組みも行っている。そうすることで気持ちにメリハリが生まれ、仕事を頑張るためのエネルギーが蓄えられるという。「この前は渋谷で買い物をして帰りました。南街ステーションで身支度を整えられるのも嬉しいですね」

現場で多くの女性が活躍することで、現場全体の就労環境の改善や士気向上、異なる視点での品質や安全の向上が期待されている。

一番感動するのは引き渡しを終えた後だという。「夜、施工したマンションの近くを通ると明かりが点いている。自分たちがつくった建物に、実際に人が住んでいると思うと感動します」

どんな建物も、人が使っていて初めて本来の姿となる。マンションに灯る明かりには、競技場の歓声や駅を楽しいに行き交う人々に触れた、幼少期の感動と繋がるものがあるのかもしれない。

### 新時代の休憩所「南街ステーション」

小串は昨年八月に「渋谷駅南街区プロジェクト」の現場に配属となった。現在所属する八名

#### komachi MEMO

「2つ目の現場で励ましてくれた職長さんが実年なんですけど、実年はいいい人多いです。悪い人はいません。最初に配属された現場の主任も実年で、尊敬する先輩の一人です。私の個人的な統計ですが(笑)」



profile

おぐし・せいこ◎1987(昭和62)年、神奈川県横浜市生まれ。工学部建築学科を卒業後、2010年4月に東急建設(株)入社。数々のマンション建設現場を経験し、2015年8月より現職。

パトロール前の南街こまちチームのメンバー。和やかなムードだが、厳しく現場をチェックする。

建設業は楽しい

「毎日が楽しい」と笑顔で話す小串。建設業の魅力はどこにあるのだろうか。

「日々できあがっていく様子を、一番近くで誰よりも早く見られるところです。いろいろな方と力を合わせてつくることの楽しさを一般の方にも知ってほしいです」

もちろんそこは仕事、楽しいばかりではない。現場は渋谷ヒカリエや歩道橋の上から丸見えだ。常に多くの視線にさらされ、緊張感が漂っている。注目を集める現場だからこそ、プレッシャーに押しつぶされそうになることもある。

「職人さんはプロです。私もいつまでもアマチュアではいられない。プロと接しても恥ずかしくない仕事を心掛けています」

日々奮闘を続ける小串に、藤平所長はこう背中を押す。

「大きな現場は自分が動かなくても進むものです。そうなるとやったつもりで過ぎる仕事が多くなる。自分の役割を考えて、大勢のなかで埋もれないように頑張ってほしい。そうすれば自然と自分のものになっていきますから」

がんばりますとはにかむ小串。七月下旬から開催される日建連の「けんせつ小町活躍現場見学会」には、渋谷駅南街区プロジェクトも参加する。その頃にはまた一回り成長し、子供たちに建設業の魅力を伝える姿が見られるだろう。